



IQ-Professional

Certificate in Teaching English to Young Learners

児童英語教師養成課程

IQ-basic

Seminar on Teaching English to Young Learners

児童英語教育入門セミナー

[主催]

英国国際教育研究所

Institute of International Education in London

[認定]

英国政府国際文化交流機関

ブリティッシュ・カウンシル

The British Council





英国国際教育研究所

Institute of International Education in London

Become an English Teacher for Young Learners

英語の本場イギリスで児童英語教育について学ぶ！
同時に英語力を高める！

英国国際教育研究所 Institute of International Education in London

英国国際教育研究所(Institute of International Education in London=IIEL)は、英国ロンドンに本部を置く国際教育研究機関です。国際教育という視点から、教育本来の位置づけとその可能性について、研究および教育実践活動を展開しています。研究所は、英国の教育制度に組み込まれた国家統一試験である義務教育修了試験(GCSE)および大学入学資格試験(GCE-AS/Aレベル)を実施する国の公的試験センター(National Examination Centre)です。

また、日本語学、言語学、日本語教育、言語教育等を研究対象とする「日本語教育協議会(The Council of Japanese Language Teaching=CJLT)」および日英の教育制度や教育問題、さらには文化研究をその主たる研究対象とする「日英の教育と文化に関する研究協議会(The Council of Anglo-Japanese Education and Culture=CAJEC)」といった両学会の本部として、総会ならびに研究発表大会の開催、研究紀要や会報の刊行等の活動を行なっています。

さらに、英国国際教育研究所・London College of Education, Graduate School(LCE-GS)の日本語教育学研究科は、「IQ-Professional/Postgraduate Diploma」、「IQ-Professional/Postgraduate Certificate」をそれぞれ授与するGraduate Schoolとして機能しています。

加えて、研究所附属の外国語教育機関であるLondon Language Centre(LLC)では、英国政府国際文化交流機関ブリティッシュ・カウンシル認定の英語教育とともに、外国語としての日本語教育に取り組んでいます。



INDEX

英国国際教育研究所 P.01

Institute of International Education in London

開講に際してのメッセージ P.03

Words from professors

顧問の先生方 P.04

Academic Advisers

児童英語教師養成課程 P.05

IQ-Professional

児童英語教育入門セミナー P.07

IQ-basic

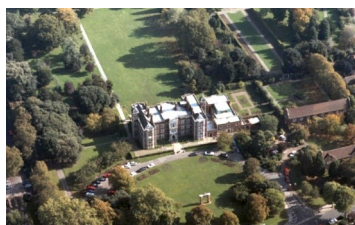
アコモデーション P.09

Living in Greenwich

申込方法・学費・他 P.10

How to apply and more

英国国際教育教育研究所は英国ロンドンにて、国際教育に関する研究ならびに教育実践活動を行なっています



IIEL英国本部キャンパスCharlton Houseは、当時の国王ジェームス1世の長男Prince of Walesを始め、王族のtutorを務めたSir Adam Newton(Dean of Durham)の邸宅として1607年に建立されました。英国に現存する数少ないJacobean朝時代の伝統的遺産として、建物および内部の装飾は当時のものが大切に保存されています。また、ルネッサンスに影響を受けた英国の建造物としても注目されています。

IIEL Greenwich Campus Charlton House



Accredited by the
BRITISH COUNCIL
for the teaching
of English in the UK



Words from Professors

小学校5、6年より英語が必修になり、力のある児童英語教師が求められています。これからの児童英語教育の中心的役割を担う教員を養成します。

▶ 開講に際してのメッセージ



図師 照幸

英国国際教育研究所 所長
London College of
Education, Graduate
School (LCE-GS) 学長

堂々とした英語教育を 児童英語教師養成課程の開講に寄せて

小学生たちが英語を学び始めた。小学校でも町の英会話教室でも、早期外国語教育としての英語教育が始まっている。「英語活動」などと曖昧で銜(てら)いを持ったことばでごまかす必要はない。堂々とした「英語教育」に取り組むべきである。今、「堂々とした」ということばを用いたが、中学校における英語教育も、高校における英語教育も同じく、堂々とした英語教育に取り組んでもらいたい。

堂々とした英語教育とは、外国語教育が本来目指すべきものをしっかりと見据え、その実現のための豊かで確かな方法に支えられた教育のことである。ことばを変えれば、今なさんとする英語の教育によって、子どもたちは何を獲得し、その獲得したものによってどう変化するのか、まずはそのことについてよく考えたい。そしてそのために取るべき教え方や具体的に教える内容はどのようなものでなければならないか。いずれもがともに充実して初めて「教育」となる。

子どもたちにとっての外国語は、子どもたちの未来にどう関わっていくのだろうか。その外国語が中国語やポーランド語ではなく、英語であるということについても教育者として配慮すべきことがあるだろう。世界語となった英語によるコミュニケーション能力を身につけることで国際(経済)競争力をつけようとする、そのことを子どもたちの教育に位置付けることだけは避けたいと思う。競争に勝つための学習は貧しく、危険である。

子どもたちは異なった価値観やまなざしを外国語から学ぶ。そのことで身につけた能力は隣人をより深く理解することを可能にするだろう。今までわずかばかりの視点で誤解していた者たちをわかろうとし、愛そうとすることだろう。隣人ばかりではない。一生会うこともない遠く離れたところで暮らす者たちの幸せを想い、考えようとするだろう。その幸せのための知性を養おうとすることだろう。英語を学ぶということが、学ぶ者のまなざしを温かいものに変え、高く尊いものに変えていく、そういったものでなければならない、そう思うのだ。

研究所は過去10年に亘(わた)って毎夏、「国際コミュニケーション能力開発法セミナー・児童英語教育(STEC)」を開講してきた。小学校や中学校の教員、英会話教室の英語教師、大学生・大学院生、さらには現職の大学教授等、さまざまな方が受講された。一度ならず、二度、三度と参加された方もいる。今回開講する児童英語教師養成課程はそれらの蓄積の上に、ポストグラデュエート・サーティフィケートの課程として開講するものである。まずは10週間、理念と方法に格闘する。(2009.10.01)



伊藤 克敏

神奈川大学・大学院
名誉教授
日本児童英語教育学会
元会長・現顧問

児童英語教師養成課程への参加をお勧めします

2011年より小学校5、6年生より英語が必修化され、より良い体制作りが必要に迫られています。過去10年間開催して来た「国際コミュニケーション能力開発法セミナー・児童英語教育(STEC)」より規模を大きくし、一流の講師陣による長期的で本格的な児童英語教師養成課程が誕生することは我が国の英語教育にとって画期的で、意義深いことと言えます。

英語発祥の地で、生の英語に接し、英国国民の生活や文化に直接触れることによって、異文化教育としての英語教育のあり方を考える絶好の機会が与えられるでしょう。

小学校(児童)英語教育は我が国の外国語(英語)教育の根幹を成すものであり、それを推進するための教師養成課程から優秀な児童英語教師が続々と誕生することを心より期待し、国際化時代に活躍する人材養成への意欲に燃えた方々の参加を切望します。

▶ 顧問の先生方 Advisers

[英 国]

Annie Hughes 英国ヨーク大学教授

Dr. Alessandro Benati Professor/Head of Department
American University of Sharjah, UAE

[日 本]

アレン玉井光江 青山学院大学教授、
テンブル大学大学院日本校 准教授
池下 幹彦 姫路獨協大学名誉教授
伊藤 克敏 神奈川大学・大学院名誉教授(日本児童英語教
育学会JASTEC元会長・現顧問)
奥田 邦男 広島大学名誉教授(国立大学日本語教育研究協議
会元代表理事・現顧問)
奥田 久子 広島修道大学名誉教授
加藤 清 元CBCアナウンス部部長
栗山 昌子 福岡女学院大学・大学院元教授、
現大学院非常勤講師
黒井 健 絵本作家
「手ぶくろを買いに」「ごんぎつね」他
坂本ひとみ 東洋学園大学教授
富田 祐一 学習院大学教授、
元「NHK基礎英語Ⅰ」講師

浪本 勝年

灰谷 謙二
前原 健二
毛利 嘉孝
森田 久司
山里 米子
吉本 和弘
若林 茂則

渡辺 春美

Liang Chua Morita

立正大学元教授、
日本教育政策学会会長
尾道市立大学教授
東京学芸大学教授
東京芸術大学教授
愛知県立大学准教授
NPO法人沖縄児童英語研究会会長
県立広島大学教授
中央大学教授、
日本第二言語習得学会J-SLA会長
高知大学名誉教授、京都ノートルダム
女子大学特任教授、京都大学非常勤講
師
名古屋大学大学院教授



1



2



3



4



5

1. IIEL Greenwich Campus, Charlton House
2. Greenwich mean time
3. Big Ben and Houses of Parliament
4. The Tower Bridge
5. The Changing of the Guards

IQ-Professional

児童英語教師養成課程

Certificate in Teaching English to Young Learners

英国ロンドンで児童英語教育のプロを目指すコースです。早期外国語教育としての英語教育を担当する教員に必要と思われる教育理念、国際感覚、知識と技術を身につけます。

▶ コースの特長、カリキュラム

Key Information

■ 開講時期・期間・受講時間

1) 土曜コース

11月9日～2020年3月21日

土/10:30～15:30

※12月15日～1月10日を除く

2) 昼間コース

①2020年1月13日～6月15日

月・水/10:30～12:30

※2月17日・19日、3月31日～4月14日、5月25日・27日を除く

②2020年6月17日～12月9日

月・水/10:30～12:30

※7月16日～9月3日、10月26日・28日を除く

③2020年9月29日～2021年3月21日

火/10:30～12:30

※12月16日～1月11日を除く

※セントラル・ロンドンで開講

3) 夏期集中コース

2020年8月3日～8月22日

月～土 9:00～14:00

■ 定員

12名(応募者が多数の場合は2クラス以上の編成とすることもある)

■ キャンパス(London)

英国国際教育研究所・英国本部(Charlton House)

■ 対象

①小学校教員および小学校教員を目指す大学生・短大生等

②児童英語教師および児童英語教師を目指す大学生・短大生・保護者等

③その他、英語教育に興味のある人

■ 入学審査

あり(詳細はP10参照)

■ 出願資格

①20歳以上の人

②英語力(高校卒業程度)

コースの特長

1. 英国政府国際文化交流機関ブリティッシュ・カウンシルが認定する教育機関がCertificateを授与
2. 日本児童英語教育学会元会長をはじめとしたアカデミック・アドバイザー・グループ

カリキュラム

■ 子どもたちが英語を学ぶ意味について考える

- ・国際理解教育原論
- ・コミュニケーション学
- ・学校と教師
- ・小学校英語と児童英語
- ・カルチュラル・スタディーズ
- ・ロンドンの小学校訪問

■ 子どもたちが学ぶ英語について熟知する

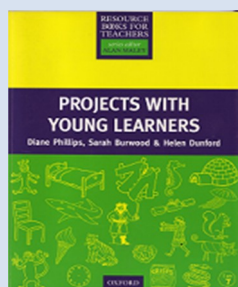
- ・児童英語教師のための英語
- ・発音・構文・文法・語彙意味
- ・子どもの生活と英語
- ・ケンブリッジ児童英検

■ 子どもたちに英語を教える方法について学ぶ

- ・児童英語教授法
- ・教材開発法
- ・クラスルーム・イングリッシュ
- ・タスクベースト・ラーニング
- ・プロジェクト・ワーク
- ・SLA 第二言語習得理論

※カリキュラム・授業内容は、教育課程の充実を図るため、変更・改訂されることがあります。

注目の「プロジェクト・ワーク」の応用



プロジェクト・ワークとは、英国の小・中・高で採用されている学習形態です。子どもたちは課せられたプロジェクトを完結させるために、主体的に行動し、様々な角度からリサーチを行なっていきますが、その過程でコミュニケーション力やリサーチ力、問題解決力等、総合的な学びが促されます。このプロジェクト・ワークの英語教育への応用が今注目されています。

当課程では、プロジェクト・ワークの理論および具体的な方法を整理し、日本の小学校英語教育におけるプロジェクト・ワークの応用方法について学習します。

授業ピックアップ

1. 国際理解教育原論

国際理解教育の位置づけと可能性について整理します。日本の子どもたちが英語を学ぶことの意味について考えます。また、ロンドンの小学校を訪問し、英国の子どもたちが学ぶ異文化についても考えます。



2. 最新の児童英語教育理論・方法

児童英語教育の様々な理論について整理するとともに、児童英語教育の最新の方法について学びます(プロジェクト・ワーク、タスクベースト・ラーニング、その他)。

3. 児童英語教師に必要な英語力

クラスルーム・イングリッシュ(実際の教室で用いる英語表現)をマスターするとともに、英語発音の練習と矯正(自分の発音を正しくするとともに、発音矯正の方法)について学びます。

4. ロンドンの小学校訪問

英国の小学校の校舎や教室の様子、実際に行われている授業の様子を見学します。また、子どもたちに日本を紹介する「Culture Talk」を実施しますので、ロンドンの小学校での教育体験ができます。

5. カルチュラル・スタディーズ

ロンドンや英国について知るということを目的に、国際都市ロンドンが持つ様々な表情を見つめます。「英国の文化(ロンドンの名所、英国の生活文化)」、「英国やロンドンの中の日本」に関する講義に加え、リサーチを行います。また、ブリティッシュ・ミュージアム(大英博物館)やナショナル・ギャラリー(国立美術館)等の名所を訪問し、日本の学校で子どもたちに英語や英国について教える際の教材(スクラップ・ブック)を作成します。

6. ケンブリッジ児童英検の応用

世界中で実施されているYoung learnerのための試験です。グローバルスタンダードな試験を分析し、子どもたちが英語を勉強する際の目安として応用していきます。



卒業生からのメッセージ

子どもたちを理解することの大切さ

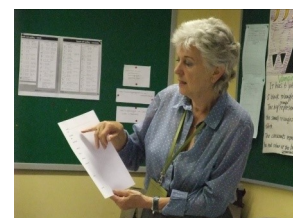
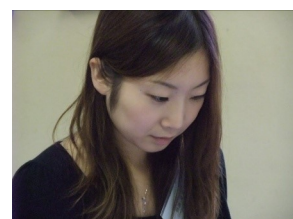
コミュニケーション学やプロジェクト・ワークを含む様々な講師の先生方の授業は、子どもたちに英語を教えていくにあたり必ず知っておかなければならないものだと考えさせられました。やはり子どもたちの発達・心理など様々な点から理解し国際理解を子どもたちと共に深めていけることがクオリティの高いレッスンだと思えるようになりました。これから児童英語教育に携わる際にはしっかりと自分の目標を持って指導していける立場でありたいと思います。今までの経験から学んだこと、そしてこの度このコースで学んだことを生かせるよう努めていきたいと思っています。

C.Yさん(30代女性)

心豊かな教育ができる人になりたい

教師として一番大切な事は、教える事や人と接する事が心から好きな事だと思います。教師がいつも一生涯懸命まっすぐ前を向いて教える事に喜びを感じていれば、その心は必ず子どもたち・学習者の心に響くものと思います。私は今はまだ児童を教えるか、中・高校生を教えるのか決めていませんが、いずれにしても英語のスキル、そして、人間として成長しようという向上心を忘れることなく心豊かな教育ができる人になりたいと思います。

Y.Iさん(30代女性)



1. IIEL Greenwich Campus, Charlton House
2. Gardens at Charlton House
3. 授業の様子
4. 授業の様子
5. 授業の様子
6. 授業の様子

IQ-basic

児童英語教育入門セミナー

Seminar on Teaching English to Young Learners

初めて英語を教える方のためのセミナーです。英国ロンドンで英語力を高めながら、児童英語教育に関する基本的知識とスキルを習得します。



コースの特長、カリキュラム

Key Information

■ 開講コース
I 教授法入門
II 教授法基礎
III 英語力増強

■ キャンパス
英国国際教育研究所
英国本部 (Charlton House)

■ 入学審査
なし

■ 受講資格
①20歳以上の人

コースの特長

1. 経験豊かなネイティブの英語教師 (Qualified English Teacher) が授業を担当
2. 初めての方でも安心して英語教育について学ぶことができる
3. 教えるために必要な英語力を同時に養成
4. 英国政府国際文化交流機関ブリティッシュ・カウンシルが認定する教育機関が開講
5. 日本児童英語教育学会元会長をはじめとしたアカデミック・アドバイザー・グループ

カリキュラム

英語が生まれた国、イギリスの空気を吸いながら、子どもたちが英語を学ぶ意味について考えるとともに、教えるために必要な英語力や英語教授法の基礎について学びます。修了生にはブリティッシュ・カウンシル認定の教育機関実施セミナーとしての受講証明書が英国国際教育研究所より発行、授与されます。

TEYL-basic I 教授法入門	Introduction to Teaching Skills & Methodology まったく初めて英語の授業を担当する人のための基本的な英語表現を中心としたコースです。 例: Introduction to Student-centred Learning, First lessons: Getting to know your students, Classroom Management (Establishing Rules & Routines, Seating, Pair work & Group work), Praise & Feedback, 他
TEYL-basic II 教授法基礎	Practical Skills for the Classroom 実際に教えるスキルを中心にした教授法の基礎を学ぶコースです。 例: Receptive Skills, Productive Skills (Speaking), Drilling & Pronunciation with Young Learners, Effective Board Work, Learner Training, Grammar for Young Learners, Lesson Planning, Teaching Practice, 他
TEYL-basic III 英語力増強	Brushing up Classroom English Skills 先生自身の英語力を高めるためのコースです。英語表現や語彙等は児童英語教育に役立つもので構成されています。

※カリキュラム・授業内容は、教育課程の充実を図るため、変更・改訂されることがあります。



3つのコースを開講(昼間／土曜／短期集中コース)

昼間コース

週1回通学し、各5週間で履修します。理解を確かめながら学習を進めることができます。子どもの送迎があるという方にも受講しやすい時間帯で開講しています。

土曜コース

週に1回通学し、各5週間で履修します。理解を確かめながら学習を進めることができます。仕事や学業、子育てを続けながら週末を使っている学習が可能です。

短期集中コース

夏休みや春休みを使って一気に履修できるので特に小学校の先生方や、学生の方にお勧めのコースです。

こんな方にお勧めです

英語教育について学ぶのは初めてという人にお勧めのコースです。修了後は、児童英語教師養成課程(IQ-Professional/Certificate in Teaching English to Young Learners/詳細→P5)につなげ、児童英語教育についてより専門的に学び、日本の子どもたちに外国語としての英語を教える語学教員の資格を取得することも可能です。

卒業生からのメッセージ

学び続けることの大切さ

夫の駐在にともないロンドンに滞在しておりましたので、いつ帰国になるか分からない状況の中、児童英語教育について学ぶ貴重な機会を得られたのは幸運としか言いようがありません。講義を担当してくださった先生方は素晴らしく、本当に驚くほど多くのことを学びました。児童英語教育に関する基礎を学んだ今、もっと専門的に学びたいという気持ちで一杯です。図師先生がおっしゃったように、ここで学ぶことを辞めずに今後も色々なことを学び、それを子どもたちと楽しく分かち合っていくこと、さらに、子どもたちからもたくさんの新鮮なまなざしを受けていくことができれば、それに勝るものはないと思っています。私にとって素晴らしい経験でした。

M.Sさん(30代女性)

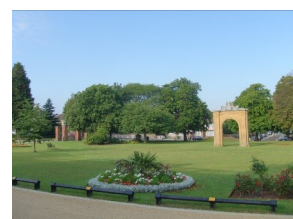
いかに子どもたちのやる気をひきだすか

例えば、褒め方一つにしても子どもたちを喜ばせる英語での表現をたくさん学びました。「No」という言葉を使わないで子どもたちのやる気をいかに引き出すか、また、子どものやる気を高めることができるかということを具体的に教えて頂き、「目から鱗」の連続でした。今回、研究所で学んだ児童英語教授法は、今後英語を教えていく上での私の財産です。それを活かしながら、日本の子どもたちに楽しく英語を教えられたらと思っています。心から感謝しております。

K.Sさん(40代女性)

テラー・メード セミナー

それぞれの機関の要望に基づき内容等をデザインし実施するテラー・メード セミナーも行なっています。日本における児童英語教育のニーズ分析に基づいた、また、英国で学ぶという長所を大いに活かした内容でカリキュラムが構成されます。



1. IIEL Greenwich Campus, Charlton House

2. Front garden

3. 授業の様子

4. 授業の様子

5. 授業の様子

6. 授業の様子

Living in Greenwich

偉大なる歴史を誇り、今なお世界の文化の発信地である英国・ロンドンがキャンパスです。英語の本場で深呼吸をしながら、一クラス上の国際感覚を身につけます。本部キャンパスは400年前に当時の皇太子プリンス・ヘンリーのために建てられた教育施設です。

▶ ロンドン・グリニッジ、アコモデーション

Key Information

■ タイプ
ホームステイ

■ 地域
ロンドン市内

■ 食事
朝・夕食付き

■ 設備
1人部屋

■ 初期手配料
60ポンド

■ 宿泊費
週180ポンド

※手配は1週間単位で承ります。

ロンドン・グリニッジ

IIEI本部はロンドン南東部にある世界遺産都市「グリニッジ」にあります。グリニッジは、古くは英国王室との繋がりをもち、海事、貿易の街として繁栄した街です。現在は、経度0の子午線が通る世界標準時の街として世界中にその名が知られ、今日も数多く残されている壮大な歴史的建造物や週末のマーケットはロンドンの観光名所の一つとなっています。2000年祭のミレニアム・ドーム(現 The O2)建造を始め、サッカーのイングランド代表チーム、元キャプテンのデービッド・ベッカム選手がサッカー学校The David Beckham Academyを開校したり、また、2012年のエリザベス女王即位60周年を記念し、皇室から与えられた称号“Royal”を冠したRoyal Borough of Greenwichに区名が改称されるなど、ロンドン市内においても注目を集める街となっています。

アコモデーション

英国国際教育研究所学生相談室では、受講生のためにアコモデーション(ホームステイ)を手配しています。また、何かトラブル等が生じた場合には速やかに解決できるように、学生相談室がアドバイスやお手伝いをします。

【ホームステイ】

手配するホームステイは、1人部屋で、一日2食(朝・夕)付きになります。定期的に各家庭を訪問し基準を満たしているかどうか確認していますので、留学生が勉強するのに適した環境が保障されています。なお、学生寮の手配を希望の場合は相談ください。

【アコモデーション制度を利用する場合】

入学手続き時に所定の申込書に記入の上、申し込んでください。



1. Homestay - Bed room

2. Breakfast



How to apply and more

1. 児童英語教師養成課程

1) 学費

1,600ポンド

2) 出願方法

以下の出願書類をメールか書留で送ってください。

①入学願書(定型)

②英語力の証明*1

③課題

「日本の小学生が英語を勉強することで何が生まれるか」*2

④入学審査料(100ポンド)

※提出された出願書類(入学審査料を含む)は一切返却いたしません。

*1

以下のいずれかを提出してください。

・英語試験結果。

Common European Framework of Reference for Language (CEFR) のB1レベルに相当するもの。B1レベルに相当するかどうか不明な場合は研究所にお問い合わせください。例) IELTS試験の場合 Listening 4.0 / Speaking 4.0 / Reading 4.0 / Writing 4.0

・高校・大学の卒業証明書または大学の在学証明書。

*2

作文の作成にあたっての注意事項

①作文は日本語で作成すること。

②作文の分量は800字程度で作成すること。

③作文の作成にあたっては、手書き、あるいはPC等の使用のいずれでもかまわないが、手書きの場合は万年筆やボールペンを用い、鉛筆等の修正可能な筆記用具は用いないこと。

④分散しないよう綴じて提出すること。

⑤作文は、出願者本人によって作成されたものであること。

⑥作文の作成にあたっては、参考文献等から引用した部分についてはそれを明記すること。

⑦作文は、コピーではなくオリジナルを提出すること。なお、提出されたレポートは可否に関わらず、返却しない。

3) 入学審査料の支払い方法

右記「支払い方法」の項を参照してください。

4) 可否結果

出願書類が受理後、1週間以内に入学審査が行われ、可否の結果が出願者本人に通知されます。なお、通知や書類はすべて入学願書に記載されたメールアドレスもしくは住所へ送られます。メールアドレス、住所が変更になった場合は、速やかに文書で連絡してください。

5) 入学手続書類

合格者には合格通知書とともに入学手続き案内等の書類が送られます。合格通知発行後2週間以内に入学手続を行なってください。

注1) 期日までに入学手続きを完了しない場合は、入学辞退者として取り扱われます。

注2) 入学手続は学費(入学金を含む)の受領後、開始します。

6) 入学手続終了後、以下の書類が送られます。

①入学許可証(Certificate of Admission)

②選定教科書および選定教科書購入について

③学生生活ハンドブック

④ビザに関するお知らせ

⑤入学式案内

⑥その他

2. 児童英語教育入門セミナー

1) 学費

TEYL-basic I 教授法入門 360ポンド

TEYL-basic II 教授法基礎 360ポンド

TEYL-basic III 英語力増強 260ポンド

2) 申込方法

以下の出願書類をメールか書留で送ってください。

①申込書(定型)

②学費

③アコモデーション初期手配料 60ポンド(希望する場合のみ)

④滞在費(希望する場合のみ)

3) 学費の支払い方法

下記「支払い方法」の項を参照してください。

4) 申込手続終了後、以下の書類が送られます。

①入学許可証(Certificate of Admission)

②学生生活ハンドブック

③ビザに関するお知らせ

④その他

◆ 支払い方法

お支払いは、銀行振込み、小切手(Payable to IIEL)、現金またはクレジットカード(事務局で直接支払う場合のみ)で受け付けています。銀行振込の場合は、振込控え(コピーも可)を他の提出書類と一緒にお送りください。振込控えのない場合は、振込み日、振込み金額、利用された銀行名および支店名を書いてお送りください。振込手数料は全てお振込者負担とさせていただきます。

【振込先】

銀行名 : HSBC Bank Plc

支店名 : Holborn Circus Branch

支店番号 : 40-11-58

口座番号 : 80390305

支店住所 : 31 Holborn, Holborn Circus,
London EC1N 2HR, UK

受取人 : Institute of International Education in London,
Charlton House, Charlton Road, Charlton,
London SE7 8RE, UK

IBAN : GB20HBUK40115880390305

BIC : HBUKGB4194P

注1) 一旦納入された学費(入学金を含む)は、クラスが開講できない場合を除き、理由の如何を問わず一切返却いたしません(入学をキャンセル、途中退学された場合等も含む)。

注1) 日本事務局への支払いを希望の場合は、日本円に換算したInvoice(請求書)を発行します。英国ポンドから日本円への換算には、願書受理日の前の週(月～金)の為替レート(キャッシュ・レート)の平均値を使用します。

◆ 出願書類提出先

英国本部 : enquiries@iiei.org.uk

日本事務局 : japan-office@iiei.org.uk



英国国際教育研究所

Institute of International Education in London

英国本部

IIEL, Charlton House, Charlton Road,
Charlton, London SE7 8RE, UK
Tel +44 (0) 20 8331 3100 E-mail enquiries@iiel.org.uk

日本事務局

〒143-0023 東京都大田区山王2-5-6 SANNO BRIDGE
国際教育インフォメーションセンター・ジャパン
E-mail japan-office@iiel.org.uk

ホームページアドレス

<http://www.iiel.org.uk>

IIEL 児童英語教師

GO